

平成30年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

教育目標 ○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成 ○強い意志から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成 ○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成
--

目指す学校像 ○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校 ○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸ばさせることに努める学校 ○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校 ○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校

今年度の重点目標 1. 「深い学び」のための支援を充実し、進路意識の高揚を図る 2. 物事に主体的に取り組み解決していく力や規範意識、自治意識の向上を図る
--

達成度	A:十分満足できる	B:概ね満足できる
	C:満足できない	D:努力を要する
※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成		

◇重点目標 1. 学力の向上を目指し、学習意欲を高めるとともに進路意識の高揚を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	教務	(1)適切な時間割と年間行事予定表の作成実施を行う。 (2)教室内外の学習環境の改善を進める。	・適切な時間割及びバランスのとれた年間行事予定作成が行われ、円滑に実施できた。 ・機器や備品は更新時期を迎えたものが多く改善が不十分である。	B	・諸帳簿等の新元号への対応及び新教育課程の作成開始。 ・教育機器や備品の計画的な更新。
	学習	(1)情報を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援。 (2)学習サイクルの定着及び自主学習の実践支援。	・全校的な取組や職員の研修等の支援が十分行えなかった。 ・生徒の自主的に学習に取り組む姿勢は好転しつつあるものの、日々の学習サイクルの定着という面では十分な成果が上がっていない。	C	・学力向上推進委員会や各部・各学年との連携を密にした生徒の深い学びや自主学習の充実への支援強化。
	図書	(1)小論文・面接関連図書の紹介を積極的に行い、放課後学習も励行し、図書館利用の増加を図る。	・図書館来訪者は常に一定数いたものの、学習のために来る者がほとんどであり、図書貸出数は減少した。	C	・図書借り出し数0の生徒を減らすため、図書への関心を高める活動を生徒一人一人に行わせるようにする。
	進路	(1)進路行事で意識を高め、希望進路に向け生徒が意欲的に学力を向上させることができるよう支援する。	・進路行事が充実し、生徒に刺激を与えることができ、1学年から大学等の施設や各種イベントに足を運ぶことができていた。しかし、各種行事が1学期に集中してしまうなど、課題もみられた。	B	・3年間を見通した進路行事の計画。事前・事後(振り返り)の指導の充実。 ・推薦基準の見直し。 ・業務の改廃を検討し教科指導や面談等への時間の確保をする。
学年	1学年	(1)自学習の習慣の確立。 (2)基礎学力の定着と思考力の育成を図る。 (3)生徒の現状を把握するため、面談等を充実させる。	・全員参加の朝の学習を実施し、自学習の習慣の確立は概ね達成された。また、Classiの導入により文章を書く機会が増え、学習や進路意識の高揚に繋がった。	B	・時間を意識させることで集中させ、時間を有効に活用させる。 ・「学びの振り返り」を通して自主性を育てていくこと。
	2学年	(1)「自ら学ぶ」姿勢の強化に努める。 (2)各教科と連携し、学力の定着向上を図る。 (3)面談を通し、個々の進路意識の高揚を図る。	・概ね良好ではあるが、頑張る生徒とそうでない生徒の二極化が見られるのも事実である。	B	・家庭での学習時間をしっかり確保するよう促す。 ・下位者の指導は継続しつつ、上位者の指導を強化し、学年全体の底上げを図る。
	3学年	(1)図書館における放課後の自主学習を奨励する。 (2)学習のアドバイスやサポートを受けやすい環境を作り、学力の向上を図る。	・放課後学習支援は実行できた。生徒情報の共有はある程度行えたが、支援の必要な生徒への働きかけが十分な効果をあげられず総合的な学力の向上までには至らなかった。	C	・学習習慣をつけることや受験への意識付けなど進路への取り組み方を検討する必要がある。
教科	国語	(1)「漢字コンクール」を軸として、漢字能力の育成を図る。	・不合格者は昨年度より60名ほど増加したものの、満点者も230名ほど増加した。目標は概ね達成できた。	B	・習熟度の低い、特に漢字能力が低い生徒に対する個別の指導内容を引き続き工夫していく。
	地歴公民	(1)四大受験までを見据え、進度を確保しつつ、定期試験等に入試問題を出題することで進路意識を高め、内容の濃い復習に結びつけさせる。	・進度の確保が十分にできない科目があった。問題作成については、模試や入試問題なども定期テストに含めて出題できた。	C	・試験前確認の徹底と授業アンケートにあった進度の確保を徹底し、一般入試で地歴公民科目を利用する生徒を増やしていくことが必要。
	数学	(1)発問や学習活動の工夫に努め、主体的な学びを促すとともに、知識や考えを深めることで自らの進路を主体的に考える一助とする。	・週末課題や小テスト、単元テスト等を用いて復習サイクルを築いた。一方で、主体的な学習を促す指導には、工夫・改善が必要である。	B	・学習内容の精選と重点化をするとともに、基礎基本の定着の効果的な学習法や、主体的な学びの促進に向けた教授法や授業形態について、研究・共有し、教科全体として進めていく。
	理科	(1)基礎学力の定着と学力向上に努めるとともに、実験・観察・発表等を通して探究心を育む。	・問題集を使うことにより「学習の振り返り」は概ねできたが、自ら進んで問題を解く姿勢の育成については不十分である。また、実験・観察を行うことにより、生徒の意欲を喚起することができた。	B	・自ら進んで問題を解く姿勢を定着させ、受験に繋がる具体策を検討推進する。 ・1年次に履修済みとなる科目の受験期まで学力を維持していく方策の検討。
	英語	(1)「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力の強化と文法知識の習得を図る。	・各学年とも生徒の学習への意識喚起は概ね良好だったが、語彙力・基礎知識の習得(定着)という点では、満足できない状況であった。	C	・より計画的に学習させて、語彙力を含む基礎学力の向上を図る。また、不合格者への指導を徹底し、底上げを強化する。
	科学技術	(1)科学技術の発展と利便性を学ぶなか基礎的な仕組みや理論を理解させ、実験・実習に積極的に取り組ませる。	・SLTと2年生の理系クラスの栃木県産業技術センター見学などで現在利用されている科学技術に興味・関心を持たせた。	B	・身の回りにある科学技術的なものの中にある基礎基本にも興味・関心を持たせて理解させる。
	情報	(1)情報モラルやネットマナーを身に付けさせ、学びを深める手段としてのICTリテラシーを向上させる。	・キーボードに触れたことのない状態から比較すると、スキルは身についた。モラルやマナーに関しては、身近な例を交えることができず、十分身に付いたとはいえない。	B	・担当者を固定する等指導体制を整える。、教員側がSNSの現状等を学ばなければならない。

◇重点目標 2. 物事に主体的に取り組み解決していく力や規範意識、自治意識の向上を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	生徒	(1)交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止を図る。 (2)頭髪・服装に対する意識の向上とネットトラブルの防止を図る。	・生活委員会や安全委員会の交通事故防止啓発活動は増加したが、交通マナーが悪く、地域の方々からご指導を受けることが多かった。 ・個人情報の安易な記載や思いやりに欠ける投稿が多く、ネットトラブルの被害者や加害者になる事例も見られた。	C	・交通ルールの遵守やネットトラブル防止に対する意識が高まるような指導の工夫を心掛け、その指導を根気強く続けていく。
	特活	(1)各行事の目標を立てるなど、自主的な活動を促し、取り組みやすい環境を整える。	・取組の結果、各行事や委員会活動は主体的に取り組み、自治意識を高められた。	B	・記録・検証の機会を各行事後に行っていく。
	健康	(1)規則正しい生活習慣の定着を促すとともに、毎日の清掃活動の中で、環境美化に対する意識を高め、生活環境の改善・向上をはかる。	・ゴミ箱の配備、ラベルの整理等を行った結果、ゴミの分別に対する意識の高揚がみられるとともに定着が図られてきた。	B	・トイレや廊下清掃の用具の充実などを図り、生徒一人ひとりが清掃活動に取り組みやすい環境の整備に努める。
	渉外	(1)学校と保護者との連携を円滑に行い、本校の教育活動に寄与する。	・PTA総会の出席率こそよくなかったものの、それ以外は概ね円滑に各PTA事業が実施できた。	B	・引き続き円滑にPTA活動を実施すること。 ・引き続き学校と保護者の連携を円滑に行っていくこと。
学年	1学年	(1)こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図る。 (2)時間厳守を徹底する。 (3)クラスの連帯感を高める。	・制服の着こなしや頭髪で大きな乱れはなく、こまめに指導し概ね達成された。時間管理については、もう少し緊張感を持たせる必要がある。	B	・髪の毛の色については、年度はじめに時間をかけて丁寧に検査・指導して記録し、保護者にも理解してもらうことが必要である。
	2学年	(1)こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図り、学校行事での積極的な活動を促進する。	・保護者の理解を得たうえで十分な頭髪・服装指導ができた。 ・適切な指導のもと学校行事や修学旅行での意欲的かつ自律的な行動が見られた。	B	・進路実現のためには、自分を律した上で自発的・積極的に行動することが求められる。生徒各自の「心の成長」を促していく。
	3学年	(1)学校生活のさまざまな場面でのマナーの向上、時間や提出物等の期限の厳守を図る。	・挨拶は多くの生徒が行えたが、一部の生徒で提出物の期限を守れない生徒や、教員に対する言葉遣いのできない生徒がいた。	B	・落ちない眉、目立たないファンデーション等の発売で指導が困難になっている。 ・進路決定後の女子のスカート丈等も課題である。
教科	保健体育	(1)体を動かすことやスポーツに親しむことの楽しさや喜びを実感させる。	・生涯スポーツの理解度を深めることができた。また、新体力テストの結果などから、自己の運動能力の改善する意識を高めることができた。	B	・生涯スポーツについては、理解した知識をスポーツライフの継続に転換できるようにしたい。 ・自己の運動能力の改善については、意識を数値化できるようにしたい。
	芸術	(1)生徒が積極的に自己表現できるよう教材の研究を行い、主体的に取り組めるよう授業の展開を工夫する。	・生徒の積極的な自己表現が多く見られ主体的に取り組む姿勢も養われてきた。	B	・生徒の多様性や文化的背景に十分対応できるような教材設定や授業の工夫が必要である。
	家庭	(1)体験活動を多く取り入れ、実生活に応用できる力を身につけさせる。 (2)実験実習に関して事後評価の工夫をし、生徒の意欲を引き出す。	・本年度DVDを使用し、アクティブラーニングを実施した。 ・実験実習後の評価に関して、前年と同様に行い特に工夫ができなかった。	B	・生徒同士の話し合いの場を設けたが、示範のDVDの流れに従って行ったので、次年度は生徒の実情に合う工夫が必要である。

◆保護者及び生徒アンケート

「重点目標1」に関する学力向上(朝の学習、土曜課外、学校開放、学習合宿、自主学習支援など)や進路意識の高揚(カレッジインターンシップ、講演会、進路情報提供)への取組においては、生徒・保護者とも概ね良好な評価となっている。しかし、それらの取組が進路を実現させるために十分な学力向上への行動につながっていない。

「重点目標2」に関する規範意識については、この3年間保護者からは一定の評価を得ているが、生徒評価はやや低めの指数70前後となっている。また、自治意識に関しては、部活動やクラスの問題を、自らの問題として物事に主体的に取り組む解決しようとする意識が年々高まっている。

◆学校関係者評価

「重点目標1」について、今年度新たにClassiの導入を図るなど進化が感じられる。さらに体験的な活動を取り入れて意識を高めたり、多岐にわたる進路希望に対応した個別指導の体制を早い時期から整えるとよいのではないかと意見がだされた。

また、アンケートにおいて生徒と教員との評価に乖離が見られる項目がある。PDCAサイクルの前に観察と解析を入れOAPDCAサイクルをつくると効果的な指導につながっていくだろうとアドバイスをいただいた。

現在、一部の生徒であるが大学の図書館や市民センター等の地域施設の利用をさせていただいている。さらに街灯の設置やバスの通過時刻の変更など地域・企業に協力を仰いでどうかとの意見もだされた。

◆重点目標における総合評価

評価基準	(1)各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。										
	(2)点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総合評価</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価点</td> <td>6.0以上</td> <td>5.9~4.0</td> <td>3.9~2.0</td> <td>2.0未満</td> </tr> </tbody> </table>	総合評価	A	B	C	D	評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満
総合評価	A	B	C	D							
評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満							

重点目標1	重点目標2
<p>「深い学び」のための支援の充実を目指し、公開授業や研修会を活用し授業改善を進めている。今年度は8割以上の教員が生徒の主体的・協働的な学習を取り入れた授業実践を行ったとしている。また、新たにClassiを導入し、学んだことを振り返り、文章で表現することを入学時より始めた。その結果、1年次から積極的に大学見学を行うなど進路意識が向上したと思われる行動が見られた。しかし、生徒の自主的な学習や学力向上へはつながっていないのが現状である。より質の高い学習の実践を支援できるよう、修正・改善していく必要がある。</p>	<p>学校行事、生徒会活動、部活動など様々な場面で生徒の活発な活動が見られている。しかし、「生徒が物事に主体的に取り組む問題解決に努めているか」に関しては教員側は不十分と捉えており、生徒や保護者の評価と隔たりが見られる。自治意識の向上のための適切な助言と指導が求められている。</p> <p>生徒の規範意識が低下していると評価している。SNS等での個人情報の取り扱いや発言などに対し意識の低い生徒、更に指導に乗ってこない生徒がおり、一層の啓発活動と粘り強い指導が必要である。また、生徒指導の方針を生徒・保護者にわかりやすく説明することが求められている。</p>
B	B
(4.29)	(4.80)